



平成29年9月21日
海上保安庁

遠州灘南方において黒潮の流路を捉えました(9月7日観測)

海上保安庁では、9月7日に海上保安庁の測量船「拓洋」で黒潮の観測を行い、蛇行している黒潮の流路を捉えました。

実測データからは、黒潮の流路が遠州灘沖で本州沿岸を離れ、かなり大きく蛇行していることが確認できました。

海上保安庁では、今後も黒潮の蛇行の状況を正確に把握するために観測を実施する予定です。

海上保安庁では、測量船「拓洋」により、遠州灘南方において黒潮蛇行域の流路を捉えるための観測を実施しました。

その結果、観測測線(東経137° 30′)上で黒潮の流軸^{*1}は、北緯31° 55′付近にあり、速さは3.8kt(約7km/h)であることが確認されました。また、今回の観測で得られた黒潮の流向や同日に人工衛星で捉えられた海面水温の分布等から、蛇行流路の南端は、北緯31°から32°の間にあったと考えられます(付図1)。8月30日に気象庁から「黒潮が大蛇行となる可能性がある」と発表されましたが、海上保安庁における今回の実測データからも、黒潮の流軸が遠州灘沖で本州沿岸を離れ、北緯32°線を超えて南に存在する状況がわかりました。

今回の黒潮の蛇行は、蛇行流路の南端の位置から、型(付図2)としてはA型に近い状況であると考えられます。今後もこの状態が続けば大蛇行^{*2}と呼ばれる状態になります。

なお、人工衛星画像などから推測される19日現在の黒潮の流路は、少し北上しており、蛇行の形が僅かに小さくなっていますが、一時的なものかどうかは現時点では不明です。

黒潮は、流速が速いことから、船舶交通や漁業等の海洋活動に大きな影響を与えます。海上保安庁では、実測することによって黒潮の蛇行の状況を正確に把握するために今後も継続して観測を実施する予定です。



測量船 拓洋

総トン数 2,400トン

全長 96メートル

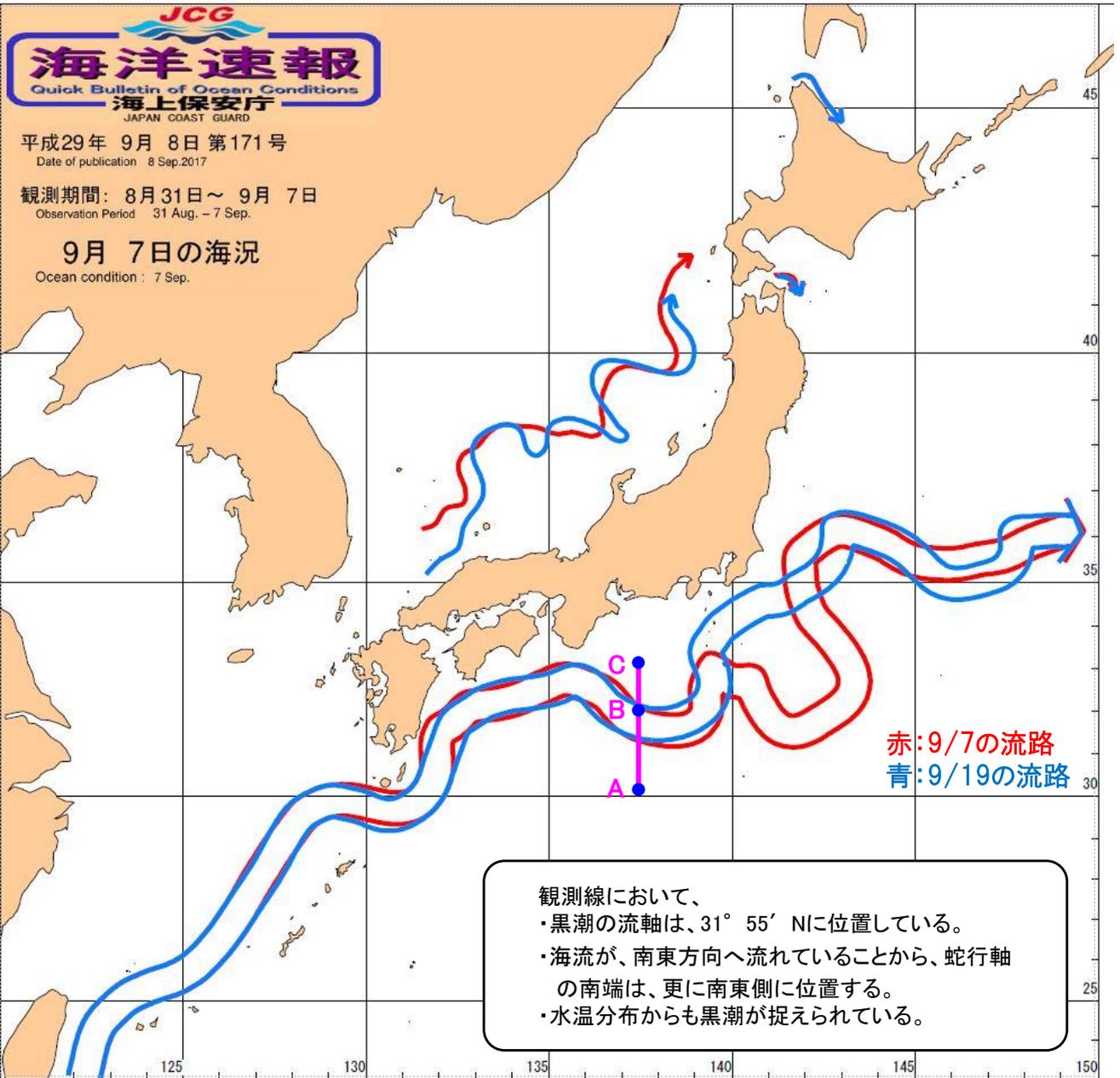
使用機器 多層音波流速計、

投下式鉛直水温連続測定装置

当庁では、船舶の航海安全ため、当庁船舶及び一般船舶から寄せられた観測データや衛星画像等を元に、日本周辺の海流や水温の現況を表した「海洋速報」を平日毎日公表していますので、海上保安庁ホームページからご利用ください。

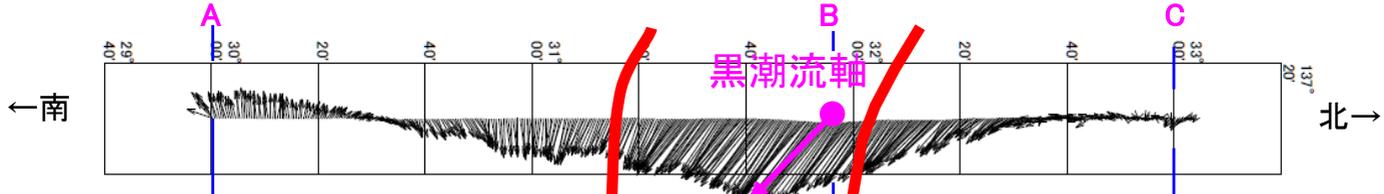
*1流軸 海流の最も強いところ

*2大蛇行 黒潮が潮岬で離岸した状態で安定し、かつ流軸が東海沖で北緯32度より南に位置している状態

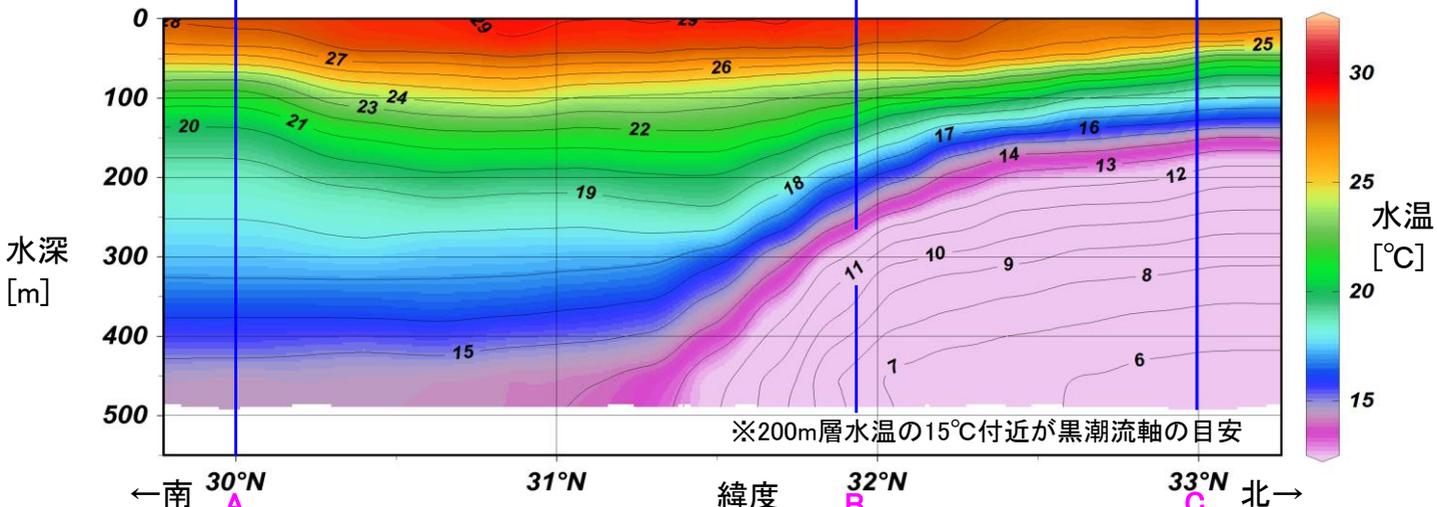


測量船「拓洋」による海流と水温の実測値(9月7日)

■ 流向・流速



■ 鉛直水温断面図



黒潮の型

本州南岸を流れる黒潮は、その蛇行の形状により、いくつかの型(下図)に分けられます。海洋速報では、このうちA、B、C、D、N型で黒潮を表現しています。

型分類	遠州灘沖から伊豆諸島周辺海域の流路	大蛇行/非大蛇行流路
A (典型的)	八丈島の北を通過 136E以东で32N以南まで蛇行 蛇行流路が南端139E以东に位置する場合を含む	典型的大蛇行流路
A (非典型的)	八丈島の南を通過 蛇行流路の南端が136E~139Eで32N以南	非典型的大蛇行流路
C (大型東偏)	八丈島の南を通過 蛇行流路の南端が139E以东で32N以南	非大蛇行離岸流路
C	八丈島の南側を通過 蛇行流路の南端が32N以北	非大蛇行離岸流路
B	八丈島の北を通過 流路の南端が32N以北かつ33N以南	非大蛇行接岸経路
D,N	八丈島の北を通過 流路の南端が33N以北	非大蛇行接岸経路

